

事例提供者：氷見市社会福祉協議会 森脇 俊二

【ケースの概略】

夫 60 歳代後半（統合失調症）で、同じく妻（左半身まひ、精神科通院歴有）も 60 歳代、住民票上は、長女の 3 人暮らし。ある日、夫が家で電気を交換中に椅子から落ち、腰の圧迫骨折で入院中。入院中に医療費の支払いと生活について妻から病院の MSW に相談があった。

夫の介護保険申請を機会に包括を経由して、金銭的に生活が苦しい状態（滞納や借金あり、冷蔵庫も壊れている）で、自立相談支援機関へつながった。

長女は、県外にて住み込みで働いているため、ほとんど会えず、父親の見舞いにも来ることなく、非協力的。次女は、嫁ぎ先に遠慮して、連絡を取っていない状態。以前は、妻の妹が妻の金銭管理をしていたが、現在は不仲。

近隣は、夫婦に精神科通院歴があることから、疎遠な状態。

【わかっていること】

【夫】

- ・精神科病院へ定期的に受診（過去に義父に暴力を振るい、措置入院、現在は安定している）
- ・厚生年金月 9 万円。年金担保の借金（20 万円）、入院費の滞納（10 万円）
- ・移動手段は自家用車。（医師からは、運転を止められている）
- ・市外に兄がいるが、入院中限定で妻の病院への送迎を行っている（関係は良くない）
- ・リハビリを行い、自力歩行はできるが見守りが必要。（入浴等）
- ・趣味は、テレビで相撲や野球観戦をすること。
- ・外出は、たばこを買いにスーパーへ行く程度。

【妻】

- ・精神科受診歴あり：病名不明（現在は通院していない）
- ・15 年前に脳梗塞を患い、左半身まひ。（月 1 回通院）ADL は自立
- ・障害年金 8 万円。消費者金融に借金が 80 万円あり、年金支給月に 2 万円ずつ返済（元金は 4 千円程ずつしか減らない：金利は法定金利内）
- ・運転ができないため、常に夫と一緒に行動している。
- ・外出時は、化粧をし、身なりに気を付けている。人の好き嫌いがはっきりしている。
- ・買い物は、近所の商店を利用。（主に、おかず類）好きなお菓子は、スーパーで買いたい。
- ・妻の父は、元公務員（市）で、退職後は、民生委員を務めていた。

【子】

- ・長女は、県外で住み込みで働き月 14 万円程度の収入。不定期で帰宅している。
- ・次女は、嫁ぎ先に気を使い、連絡をとっていない。（夫婦も気兼ねしている）

【ケースへのフォーマルな支援】

◆自立相談支援機関→関係機関調整

①世帯状況の確認

○身体状況の情報共有…**病院** ○滞納状況確認…**市各課**

②夫の日常生活における ADL 機能の回復と精神科への通院

○サービス調整（訪問介護）、自立支援医療手続き、精神科病院の転院…**居宅介護支援専門員**

③買い置きできない、移動の問題、債務整理

○遊休品バンク活用（別事例宅冷蔵庫の搬入）、地元商店への配達調整…**相談支援員**

○入院費の支払調整（分納）…**病院** ○借金借り換え…**弁護士・金融機関**

④金銭管理、世帯の身体状況把握

○地域相談窓口による定期訪問…**市包括** ○日常生活自立支援事業利用説明…**市社協**

○家計支援の導入（定期訪問、返済計画作成、返済時の同行）…**家計相談支援員**

ワークシート

■問1

公的支援等により、日常生活を送る上での最低限の基盤を整えた後に、この夫婦が住み慣れた地域で生活し続けられるための見立てとそのために必要な情報は？

■問2

見立てから考えられるインフォーマル支援は？

(各自が知っている地元地域の社会資源をイメージして)